

『一生懸命』幻の新座市議会報告第156弾!

たかむらともや

2018年

明けましておめでとうございます。2018年が始まりました。先月は東久留米市長選挙などの影響で駅立ちが出来ませんでした。今年もできる限り、駅に立ちたいと思っていますので、よろしくお願いします。今年のお正月もニューイヤー駅伝、箱根駅伝を見ながら、年賀状を書きました。市内の方にはこちらからは出せないの、どうしても毎年、駅伝と年賀状書きがセットになるのです。去年は五中陸上部にはまった年でした。今年は何に燃えるのか、自分でも楽しみです。子ども達に負けずに自分自身を鍛える1年にしたいと思います。



写真は昨年12月17日に滋賀県で行われた、全国中学校駅伝大会で激走する第一走者です。この中に五中の3年生Mさんもいます。

地区大会、県南大会、県大会、関東大会と応援してきたので、この日も僕は滋賀県に来て、声を枯らして応援しました。この全国大会が始まって25年になりますが、各都道府県で1位にならないと出場できない大会に五中陸上部が新座からはじめて出場したのです。驚いたのは女子の部で優勝した京都桂中学のメンバーのタイムでした。4人が1500mのタイムで3分40秒を切っていたのです。トップの子のタイムは4分29秒で、高校1年生の時の僕と同じタイムです。中学生達がどれだけ練習してこの場所に来たかが分かります。頑張る中学生達を今年も目一杯応援しながら、自分自身も鍛えて、テニスの全国大会を目指したいと思います。

2018年1月31日発行



今年最初の黒目川の川掃除は10人での掃除になりました。来月2月は18日(日)の予定です。多くの方の参加をお待ちしています。

たかやんのプロフィール



1954年、港区青山生まれ。父新太郎は中央大学法学部在学中学徒動員でビルマ戦線へ。機関銃部隊小隊長としてイギリス軍と戦うが捕虜となり、帝国陸軍小尉として終戦を迎える。その後、厚生省から労働省へ。中央労働委員会を経て、富山の労働基準局長、茨城の労働基準局長となる。

母ひさ子は東京生まれ。尋常小学校では成績は一番だったが、父親を早くになくして家が貧しかった為、箱屋に丁稚奉公。その後、海軍省に勤める。終戦は学童疎開の寮母として迎える。母の兄と父が中央大学時代の親友ということで、結婚したらしい。父は生きていれば95歳。「三本の矢に」という詩集と「立山・黒部・筑波」という随筆を出版している。母は現在93歳。「出会いそして別れ」「限られた命の日々」という二冊を出版している。写真は昭和26年頃の若い頃の父と母、そして兄。場所は新宿御苑。母の笑顔が眩しい。

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 母危篤

その知らせは突然きました。1月4日の夕方のことです。小学生と今年初めての塾で、笑い転げていた僕はその電話でおかしくなりました。

頭では覚悟できていた筈でした。母はもう93歳なのですから、いつ何があってもおかしくない…それは分かっていたことでした。でも、現実には「熱が高く、最高血圧が70を切り、意識がありません。救急隊が病院を探しています。見つかれば次第連絡します」という電話が来ると、動揺している自分がいました。中学生の子達には申し訳なかったのですが、その夜の塾をお休みにして、兄と二人で車で母さんが運ばれた病院に行きました。その途中、「急いで！危険な状態です！」と電話があり、本当にダッシュで病院に駆け込みました。先生からは「非常に重篤な状態です。延命措置はどうされますか？」と聞かれました。

僕は2秒程間を置いて、「延命措置は結構です。母もそれを望んでいません」と答えていました。先生は「血圧を上げる薬以外は、特別には何もしません。」と言いました。こんな風に母さんの人生は終わってしまうんだ…僕は病院の廊下で呆然としていました。その時の心境を僕はfacebookに書いています。

「母さんが救急車で運ばれ、病院の待合室で呆然としています。93歳です。十分頑張ったと思うのですが、お母さんがいなくなるかも知れないという恐怖は想像以上です。お父さん、もう少し待って！もう一度、お母さんと話が話したいんだ。お母さんに”ありがとう”っていいたいんだ。」僕はfacebookにそう書きました。すると、「祈っています！」「手を握って」「声を掛けて！」という沢山のメッセージが届きました。僕は廊下で独り泣きました。母さんにどうしても「ありがとう」って伝えたくて…。そして母さんや僕を心配してくれた教え子達や友達に「ありがとう」と感謝の気持ちで一杯になって……。その日から10日以上経ちました。母さんは多くの方が送ってくれた「元気玉」と「大正女のど根性」で復活しつつあります。2018年の最初の議会報告は全て書き換えました。何ひとつ議会と関係あることは書いてません。どうか、許してください。僕にとって、それくらい大きな出来事だったのです。

③ ありがとう・・・



ひだり上の写真が母さんの姉妹です。左が妹の礼子おばちゃん。右が姉の信子おばちゃん。真ん中が母さん。本当に仲のいい姉妹でした。右上の写真もそうですが、母さんの写真は笑顔が多いです。僕はずっとこの笑顔に育てられてきたのです。「母危篤」の時、僕が母さんに伝えたかったこと、それは…

”お母さん、僕を生んでくれてありがとう。”

”お母さん、僕のお母さんでいてくれてありがとう。”

”お母さん、僕はお母さんの子で幸せでした。本当にありがとう。”という言葉でした。

僕の祖母はお寺の娘でした。そのお祖母ちゃんに育てられた母さんに育てられたので、僕も弱いもの虐めができない子になりました。そして生き物を殺せない子になりました。ゴミ箱以外にゴミを捨てられない子になりました。僕は超悪ガキでしたが、お母さんだけには嫌われたくなかったのです。



父さんも母さんも「職業に貴賤はない」とよく言っていました。「どんな仕事も立派なのよ」「人を外見で見えてはいけないのよ」学歴で人を見てはいけないことは、父さんと母さん自身が証明してくれました。

父さんは大学を中退していたし、母さんは小学校しか出ていなかったからです。そんな母さんがテレビに出たときの写真が右上です。この時の対談の相手は田中角栄でした。当時、自民党の幹事長だった田中角栄との対談で堂々と話している母さんの姿はとても眩しく見えました。

僕は「勉強しなさい！」と言われたことが一度もありません。「勉強できることは幸せなこと」それが口癖だった母さんに育てられて、本当に幸せでした。